

談話の理解 (025~029)

座長 内田 伸子・須藤 貢明

025 先行オーガナイザーの適切・不適切が文章再生に及ぼす影響

東京工業大学 大村 彰道
// 樋口 一辰
東京大学 久慈 洋子

026 文章理解の発達的研究

東京学芸大学 須藤 貢明

027 文章からの知識の獲得におけるスキーマ化促進の
効果 お茶の水女子大学 内田 伸子

028 テキスト理解と統括処理

筑波大学 茂呂 雄二

029 伝達意図と音声表現

筑波大学 堀 啓造

025 大村, テキストの理解と記憶に与える前置文(オーガナイザー)の適切さと不適切さが持つ効果の研究。(適切なオーガナイザー) = テキストの主旨文, (不適切なオーガナイザー) = 主旨にまとはずれな文。

手続は, 文字による教示の後に, オーガナイザー, テキストを読ませ, 再生用紙によって内容の直後自由再生を課す。また一週間後に遅延自由再生を課す。

結果の評価は, 適切オーガナイザーに関連する適切部分の再生と, 不適切オーガナイザーと関連する不適切部分の再生の得点による。両再生成績では, 被験者間要因でオーガナイザーの種類に有意差はなく, 被験者内要因で有意差があった。そしてオーガナイザーが, 対応する意味の再生成績を上昇させるという影響を明示した。これに対し波多野(独協大)が, 無関連部分の抑制にオーガナイザーが強く働くのかと質問し, 大村から, 肯定する回答があった。

026 須藤, 周波数歪みのある語音と, 雑音を混入した語音による音節と文の聴取成績から, Norman, D. A. の提唱する概念推進型の認知を探る研究。

方法 小学2年の児童を言語力が未成熟な群, 大学生を成熟した群とし, この2群の文の了解度と単音節の明瞭度を, 周波数歪音と低SNR音について求める。この値を指数関数で近似し, それらの近似値から両被験者群の言語認知の差を求め, Normanの概念推進型の認知の有無を検討する。結果は, 大学生は小学生に比べて約半分の語音聴取値で文を理解することを得たことなどから, 言語力の発達に概念推進型の認知が大きくかわっ

ているとした。

027 内田, 文章学習における「見出し」や「事例」の呈示の効果を探る研究。

手続は, 材料文の聴取の後に, 「見出し」付材料文(A群)の呈示, 「事例」付材料文(B群)の呈示, 材料文の呈示(C群)した後, 自由再生と理解テスト(内容の解釈と他の事例への推論)を行う。また, 3日後, 自由再生と理解テストおよび材料文の要約。

結果 学童の自由再生および大学生の要約再生において直後, 遅延再生とも, $A > B > C$ の成績となった。他事例への推論では, $B > A > C$ となった。また, 直後と3日後の差はなかった。「見出し」と「事例」を別々にあるいは同時に示すことにより, 後続文章処理の簡潔なスキーマが成立しやすくなる。しかし, 言語力の低い子どもにはあまり有効でない。

28 茂呂, 文脈を形成する統括(coherence)形式と理解の関係を, 先行文の同一名詞の反復と潜在という表現上の統括形式から検討した研究。

方法 先行文に含まれた名詞が, 後続文にもあるテキストとないテキストの理解時間をテキストを読み進める時間から求めた。その後, 再認テストあるいは検証課題を行った。被験者は大学生40人。

結果 潜在文の読み理解時間が長いこととテキストの再認テストおよび検証課題に差がないことを示した。

029 堀 音声の物理的特徴と伝達意図の研究で, 音声の基本周波数の軌跡や持続時間と伝達意図の関係の解析。

方法 職業俳優2名による短文の発話音声をソナーグラムで分析し, それを用意した伝達意図の分類と対比することによった。伝達意図は, 「甘え」, 「いやみ」, 「親しみ」, 「気をひく」, 「事務的」の対人態度によるものと, 「依頼」, 「提案」, 「働きかけ」の対人的働きかけの種類の15伝達意図とした。

結果 二人の発話を別々に分析したが, 話者Aは対人的働きかけと対人態度の使い分けが見られないが, 話者Bは安定した使い分けがあった。この報告では, 意図を伝達する音調の傾向を確認できたのみである。

討論

波多野(独協大)から大村へ「適切・不適切」の概念を導入したが, 論文集では大村の明確な定義がないようだがと質問があった。そして, もしないとすると従来の「質問の挿入の研究」等におけるテキストを読む前に何かを提示すれば, それに関連した部分は良く記憶し, 他は抑制するのと同じになるように思えるとあった。また,

027内田に対しては、大村の研究では「不適切」部分の抑制があったが、内田ではなかったのか。また、統制群は他に比べて、長い時間、材料文を読んでいるのに対し、この間、統制群は何をしていたと考えるべきかと質問があった。

これに対し、大村は、「適切・不適切」は、先行オーガナイザーAとBという意味で用いている。それ以上には考えていない。オーガナイザーの機能は、注意を何にあてさせるかという点は挿入質問と同じだが、他の機能も同じかは不明であると答えた。また内田は次のように答えた。A群、B群では子どもが重要と見做す文の順位と大人が要点として再生した文の順位が一致する傾向がある。これに対して、C群(統制群)では一致しない。すなわち、文章の中でどれが重要な情報かについて見分けがつかず、要点が把握できなかつたことを示唆している。要点再生、理解テストいずれも低い成績であったことからC群は処理負担が高く十分に文章の情報を理解しえなかつたことを示唆していると思う。また、波多野からの研究ストラテジーの新規性に関する件は、両氏とも従来のもと同じであると答えた。さらに、波多野から、反応のメジャーを自由再生のような従来ものを用いることなく工夫する必要がある。刺激に関してはここ10年間で非常に進んだが、それに対して反応のメジャーは以前のものを引きずっていると思えるコメントがあり、それに対し、両氏とも同意した。

作問(玉川大)から内田へB群にアウトラインと事例を呈示したが、事例を与えたことが有効であったと考え得るのかと質問があった。

内田は以下のように答えた。先行情報にはラクダ以外の動物の事例も含まれている。それ故、B群では、必ずしも要点の情報でないそれらの事例をも含めて処理を進めたと考えられる。その結果で上がった要点構造は、ラクダの情報とその他の動物の情報も含み込んでしまっている。従って、B群はA群よりもルーズな構造になっている可能性がある。この解釈を裏づけるデータとして、B群の要点再生の得点が低いのに、理解テストの問Ⅱの答え方に高いバラエティがあった。

また、麻柄(千葉大)から内田へ理解テスト1の正答率が理解テスト2の値より低い理由と、語彙検査の結果で被験者を等質に分けたのに、理解度テストでB群の低位群に効果があった理由について質問があった。

内田は、問1の方は「なぜ役立つか」という種類の問なので、文章内の情報が統合された上で答える必要があること等から問2の方が正答率が高くなったのであろう。また、B群では低位群も十分に使いうる程度に具体的な情報であったため、文章の理解が促進され、理解テスト

に高得点をとることができたのであろうと答えた。

麻柄は、等値な群に分けると、テキストの内容の知識に関する量をインデックスに組み入れる必要があるのかないのかということに関し、内田、波多野の3者によって次のような討議がなされた。内田からは、そのようなインデックスがあれば使いたいが、そのような具合のよいインデックスを見つけるのは難しい。波多野からは、それに関する知識等で分けたいのであるが、これまでの研究でうまく行った例が見つからないとコメントがあった。

028茂呂(筑波大)に岩立(学習院大)は、文法性を限定した意味で使っているようだが、もっと広い意味で文法性をとらえるべきだろうと正した。

岩立は、私自身としては、文法性として意味的なものとか統語的なものとか文脈的なもの等のいろいろなものを含めた全体的なものとして捕えている。と報告した。

茂呂は岩立の意見に同意し、文法性を狭義に解釈したが、文を研究するためには、それに加えるべき点があるという意味で文法性を用いたと述べた。

続いて、岩立は、日本とアメリカの言語の研究にふれ、アメリカの場合は単文の研究のデータを踏まえた上での談話の研究であるのに対し、日本の場合は単文の研究が深まらないのに談話の研究へ移行している感があると述べた。

029堀(筑波大)の研究に対し、波多野(独協大)と須藤(東学大)から、音声の中に心理量に対応した decoder ability があることを確認した後に、物理的解析をし、その結果と decoder ability を照合すべきであるとのコメントがあった。

026須藤(東学大)へ、大学生と小学生では、いろいろな点で差があるので、この研究をどのように詰めるのかと波多野(独協大)から質問があった。

須藤は、言語の持つ内包の心理学的側面を明確にすることを考えていると答えた。波多野は、麻柄氏の討論に関係するが、概念的な豊富さなど、いろいろな面から、もっと具体的に詰めるべきだろうとコメントした。

(付記) テキストの構成において、単文の示す意味が他の単文の意味とどのような関連をもつときに理解の容易なテキストとなり、そうでないときは理解が容易でないものとなる理由などについての研究及び討論がほとんどなかった。これらの点をもっと深め、具体化することによって、談話理解のメカニズムが明確になるのではないかと思われる。

(須藤記)